

愛荘町の浸水防除対策の進め方（案）

【現状】

- ・不飲川〔県〕、文録川〔県〕、文録川派川〔彦根市〕で浸水被害が発生している。
- ・県、市の管理する河川の上流側に位置する町の河川を改修しても水位を下げられない。
- ・近年、県下で唯一人口が増加している町である。

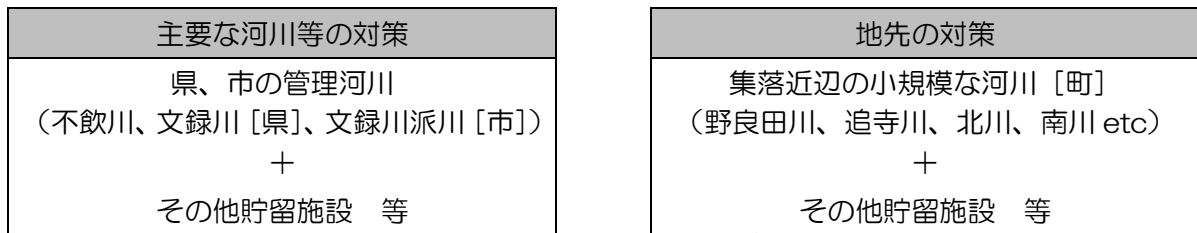
自治会へのヒアリング結果 抜粋

- ・近年、実害はなく(家屋浸水はない)が水田が浸水する等の被害が頻発
- ・不飲川〔県〕の維持管理状況が町の河川にも影響していると思う
- ・今後、出水規模が大きくなると溢れるかもしれないという心配はある

【課題】

- ・町の河川と接続する下流側河道（県、市管理河川）の浸水被害の軽減。
- ・今後の開発に伴い増加することが予想される流量への対応。
- ・流入先の河川（町の下流側の河川）のネックポイントにより、町の河川が影響を受ける恐れがある。

【進めるべき対策(案)】



下流河川の影響によって町の河川が満水になっている可能性がある。

【対策例】

対策	方策	対象	備考
流す	河川改修（流下能力UP）	県管理河川	河道改修、維持管理（河床整正 等）
		市管理河川	河道改修、維持管理（河床整正 等）
		町管理河川	接続先の下流側の河川〔県〕〔市〕の流下能力、背水等の影響により、町の河川改修は効果が限られるかもしれない
	放水路	県管理河川	不飲川〔県〕の整備計画において整備が位置づけられている
貯める	貯留施設	町内	効果が限られるかもしれない

町だけで進められる対策では、浸水防除の抜本的な解決にならないが、差し当たって実施可能な調査等を早急に進めておく必要がある。

※愛荘町では2ヶ年を目処に浸水防除に関する委託業務を実施中

1年目：平成28年度（実施中）

1. 現地調査

収集資料をもとに現地調査(周辺住民のヒアリング)を行い、過去の浸水範囲や浸水形態、地形状況及び土地利用状況、排水系統、土砂堆積や植生の繁茂状況等の水路状況について把握を行う。水路状況の把握については、現況水路敷高、水路横断形状や現況地盤高などを把握するための簡易測量を行う。

2. 浸水要因分析

当該区域の現況河川状況を踏まえ、水理検討による現況河川の流下能力及びその確率評価を行い浸水要因の分析を行う。

(1)現況流下能力の算定

等流計算、不等流計算により現況河川の流下能力の算定を行う。なお、検討にあたっては取水施設等の既設工作物の影響、局所的な河道の屈曲、狭窄部、植生状況などを適切に評価し、水理検討手段や計算条件の設定及び、流下能力評価を行うものとする。

(2)現況流下能力の確率評価

近傍の雨量観測所の降雨強度式を基に、対象河川における確率規模毎の流出量を算定し、前項で算定した現況流下能力の確率評価を行う。

(3)想定浸水範囲の概略検討

現況流下能力、背後地の地形、土地利用状況等を踏まえ、検討対象区域の想定浸水範囲の概略検討を行う。

(4) 浸水要因分析の整理

前項までの検討結果を踏まえ、対象地区の浸水要因について整理する。

3. 総合検討

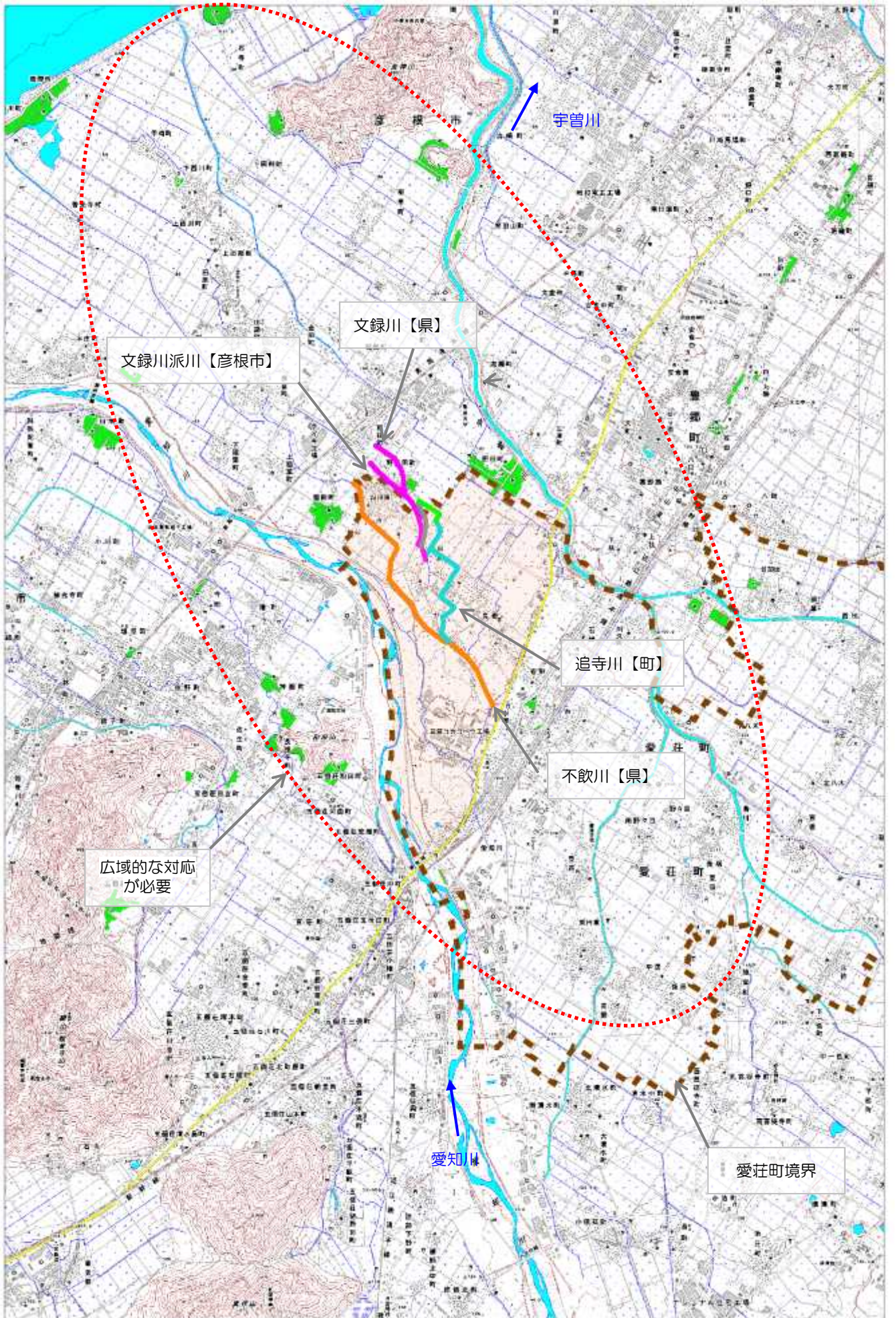
浸水要因分析で把握した浸水要因の解消を目的とした浸水防除対策(案)の検討を実施するための今後の検討課題、検討項目等を整理した「浸水防除対策(案)検討計画書」を策定する。

2年目：平成29年度（予定）

◆浸水防除対策の検討

平成28年度に策定する「浸水防除対策(案)検討計画書」に基づき、愛荘町の浸水防除対策を検討する。その際、関連機関との連携が図られれば、より効率的、効果的な浸水防除効果が得られると考えられる。

以上



文録川派川【彦根市】

文録川【県】

追寺川【町】

不飲川【県】

広域的な対応
が必要

愛荘町境界

宇曾川

愛知川